

氏名（本籍） 佐野 智樹  
学位の種類 博士（コーチング学）  
学位記番号 博甲第 9981 号  
学位授与年月 令和 3 年 3 月 25 日  
学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当  
審査研究科 人間総合科学研究科  
学位論文題目 体操競技のあん馬における技術発達史的研究

主査	筑波大学教授	博士（コーチング学）	渡辺良夫
副査	筑波大学教授	博士（コーチング学）	中山雅雄
副査	筑波大学助教	博士（コーチング学）	山田永子
副査	順天堂大学助教	博士（コーチング学）	新竹優子

## 論文の内容の要旨

佐野智樹氏の博士學位論文は、体操競技におけるあん馬の技術発達史を研究することを通して、技の生成消滅の背後で働いている価値志向性を解明したものである。その要旨は以下のとおりである。

### （目的）

研究の背景として著者は、現在における体操競技の技や技術、規則を正しく評価し、将来における発展の方向性を見定めるためには、技の形態淘汰化現象に働いた歴史的な価値志向性を明らかにしなければならないと述べている。そして、このような技の淘汰化規範性として働く価値志向性を解明するには、幅広い時代に対して技の発生と消滅の傾向を確認し、技の生成消滅の背後で影響を与えている様々な諸要因を関連付けて分析することが必要になるという。さらに著者は、近年の体操競技の世界では、技の発達史的認識が希薄化していることによって競技会における採点およびトレーニング実践場面で混乱が生じており、そうした傾向が最も顕著に表れているあん馬について率先して技術発達史的研究を行い、望ましい発展の方向性と伝承価値ある技を見極めることが急務であると述べている。

本研究のねらいは、1970 年ごろから技術発達史的研究が停滞しているあん馬を対象にして 1970 年代以降の技術発達史的研究を行い、技の歴史的形態淘汰化現象の様相とそこに働いた価値志向性を解明することを通して、後世へ伝承されるべき技が有する価値契機の解明を行うことにあるという。

### （対象と方法）

研究のねらいを達成するために、岸野・多和らによって提唱された「技術発達史の方法」に基づいてあん馬運動の発生以来の技の発生と消滅を確認するための史料を収集整理し、それらの史料に基づいて発生運動学における「始原論的構造分析」の方法を用いた分析を行っている。

本研究においては、以下の3つの研究課題が設定されている。

研究課題1：最も古くから存在する片足系の技術発達史の解明

研究課題2：演技の中心的役割を担う両足系の技術発達史の解明

研究課題3：1980年以降に発生した倒立系の技術発達史の解明

#### (結果と考察)

研究課題1では、あん馬運動において最も歴史が古いとされている片足系の技術発達史を明らかにするために、はじめに、片足系の技として成立するための構造解明を行っている。次に、先行研究に基づき1970年以前の片足系の発達史を概観したうえで、本研究において収集整理した史料に基づいて1970年以降の片足系の技の発展傾向をまとめ、さらに、技の発展に対する影響要因について始原論的構造分析を行うことによって片足系の技術発達の後で働いている価値志向性を明らかにしている。

研究課題2では、現代におけるあん馬運動の演技の中心的役割を担う両足系の技術発達史を明らかにするために、はじめに、両足系の技として成立するための構造解明を行っている。次に先行研究に基づき1970年以前の両足系の発達史を概観したうえで、本研究において収集整理した史料に基づいて1970年代以降の両足系の発展傾向をまとめ、さらに、技の発展に対する影響要因について始原論的構造分析を行うことによって両足系の技術発達の後で働いている価値志向性を明らかにしている。

研究課題3では、1981年に発生した倒立系の技術発達史を明らかにするために、はじめに、倒立系の技として成立するための構造解明を行っている。次に、倒立系が発生してあん馬の技として認められるに至る歴史的経緯を明らかにしたうえで、本研究において収集整理した史料に基づいて倒立系の発展傾向をまとめ、さらに、技の発展に対する影響要因について始原論的構造分析を行うことによって倒立系の技術発達の後で働いている価値志向性を明らかにしている。

最後に、以上の三つの研究課題の成果をまとめることで1970年以降のあん馬の技の発展傾向をまとめるとともに、その背後に存在する歴史目的論的志向性を明らかにし、伝承すべき技が有する価値契機の解明が行われている。

## 審査の結果の要旨

#### (批評)

本研究による技術発達史的研究の成果は、あん馬運動の技の体系論的研究、技の評価、技術開発方法論、あん馬のトレーニング法の開発に示唆を与えるだけでなく、本研究で用いられた研究方法論は体操競技における他の種目あるいは様々なスポーツに応用されることを含めて今後のさらなる発展が期待できものであり、従来の研究と比較して非常にオリジナリティーの高い、コーチング学分野にふさわしい研究である。

令和3年1月14日、学位論文審査委員会(オンライン開催)において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士(コーチング学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。